

国産鶏肉のフードシステム形成と 包装資材使用に関する分析

長谷川 量 平*

1. はじめに

平成 15 年度以降、わが国の鶏肉の主要な輸入国である、タイ、中国で高原性鳥インフルエンザの発生が認められ冷凍鶏肉の輸入禁止・制限措置がとられるなどした。結果、冷凍鶏肉の輸入は激減し、国内生産が伸張され、平成 22 年の食鳥流通統計によると、肉用若鶏（ブロイラー）の処理（出荷）羽数は 6 億 3379 万 9000 羽で前年に比べ 0.1% 減少したものの、処理重量（生体）は 183 万 5091 トンで 0.5% 増加した。近年、タイ、中国の代替国として、ブラジルの冷凍鶏肉輸入が大幅に増加。また、タイ、中国からの鶏肉調整品の輸入も増加し、需給関係が悪化している。

こうした中、飼料、原油ともに価格が上昇し、生産コストの上昇が逃れられない状況にもある。

本研究は、鶏肉生産・流通自体をメインシステムとして捕らえるならば、それを下支えするサブシステムに焦点をあて、サブシステム自体のコストダウン検証と、今後にわたってのあり方の提言をするものである。

サブシステムとは、具体的にいうならば、梱包資材とそれから生まれる廃棄物処理などをいう。

全国の生産加工企業及び荷受に対して、流通量と包装資材（ポリ袋とダンボール及びカゴ）の使用状況をアンケート調査し、それを元にいくつかのヒアリング調査をおこない、川下の川上への作業委託といえる「カゴ流通」および「産地パック」の流通実態と有用性を検証する。

有用性を検証するに当たって、川下の利益が川上のリスクとなるような利害表裏関係に無いことを前

提に、鶏肉の商品特性、規格などを勘案して、互いに利益を得るためにはどういった形での利用が必要であるかを分析する。

具体的には、生産加工企業および荷受への訪問調査及びアンケート調査により「産地パック」の生産流通状況および問題点を明らかにし、今後のこれらの動きへの提言としたい。

2. 研究の概要

生産加工企業 89 社に対し各社工場ごとの生産規模、ポリ袋使用状況、産地パック生産状況、ダンボール及びカゴ使用状況、出荷先に関するアンケート調査を行った。（平成 22 年 10 月～平成 23 年 2 月）

荷受企業 57 社に対しては会社ごとに、生産規模、入荷する製品のポリ袋使用状況、ダンボール及びカゴ使用状況、出荷先に関するアンケート調査を行った。

送付後、生産加工企業 36 社 53 工場、荷受企業 20 社から回答をいただいた。

回答いただいた企業のうち生産加工企業 5 社および荷受企業 3 社、合計 8 社に対し訪問調査を行った。8 社の地域は、生産加工企業が、岩手県、群馬県、広島県、愛媛県、兵庫県、荷受企業が和歌山県、東京都 2 社である。このほか、宮崎県への訪問を計画したが、「鳥インフルエンザ」の発生により断念した。

3. アンケート調査結果

・生産加工工場（別添資料① 生産加工企業単純集計結果参照）

表 1 は生産加工企業のアンケート概要である。生産加工企業 36 社 53 工場から回答を得た。日本食鳥

* 鯉淵学園農業栄養専門学校 食農環境科

表 1. アンケート調査 基本データ（生産加工）

	回答数	稼働日数	処理羽数	うち地鶏	うち銘柄鶏	うち一般鶏
東北	15	277	34,897		13,610	24,009
関東	2	268	11,635	50	4,076	7,534
中部	4	263	14,107	434	5,890	16,000
関西	2	297	3,950	200	300	3,700
九州	31	277	30,428	806	16,165	22,297
計・平均	54	276	28,784	572	13,624	21,105

※支部区分けは食鳥協会支部分けによる

※工場の所在地を優先した

※地鶏については数値があるものの平均で一般鶏との合算が一致しない

表 2. 回答工場の地域別処理羽数（日量）

	1 万未満	1 万以上 2 万未満	2 万以上 3 万未満	3 万以上 4 万未満	4 万以上 5 万未満	5 万以上	
東北		2	3	6	2	2	15
関東		2					2
中部	2	1		1			4
関西	2						2
九州	6	3	10	3	2	7	31
	10	8	13	10	4	9	54

※支部区分けは食鳥協会支部分けによる

※工場の所在地を優先した

協会の支部区分わけに基づき、本社所在地ではなく工場所在地にて東北から 5 つのブロックに分けた。

東北、九州の回答数が多く、この 2 地域で 46 工場となった。

これら 53 工場の処理羽数を合計すると、155 万羽 / 日量となり、地鶏を除き、稼働日数をかけたものの合計が年間の処理羽数が 4 億 2 千万羽となった。上述の「平成 22 年度食鳥流通統計」のデータと照合すると国内鶏肉流通総量の約 6 割をカバーするデータである。

表 2 は回答いただいた工場の地域と規模を示している。

図 1 は、データの地域別シェアである。九州が 61% と圧倒的に多く、東北となる。「平成 22 年度食鳥流通統計」によると九州のシェアは 4 割強であるので、若干九州に傾向したデータである。回答数が極端に少ない関東、中部、関西はほとんどシェアがない。

図 2 は、データの規模別シェアである。日量 2 万羽以上のシェアが 9 割を占める。

図 3 は地域別の包装資材使用状況である。全国平均を見てみると、2 キロ真空が 90.9% と大きな割合

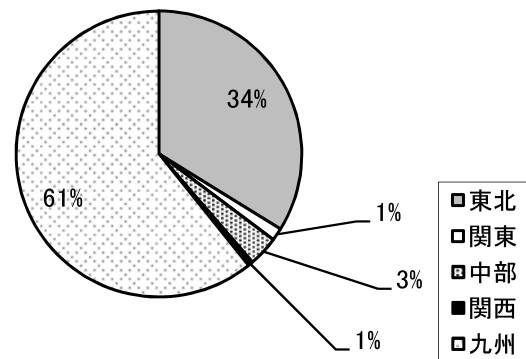


図 1 データの地域別シェア

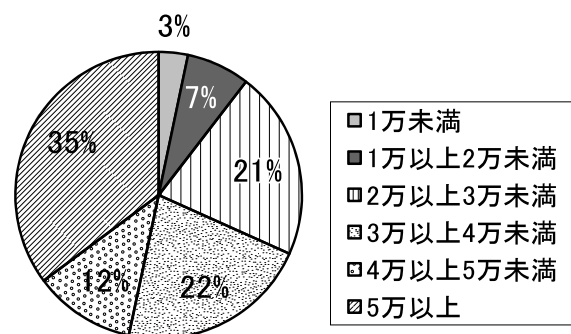


図 2 データの規模別シェア（日量処理羽数）

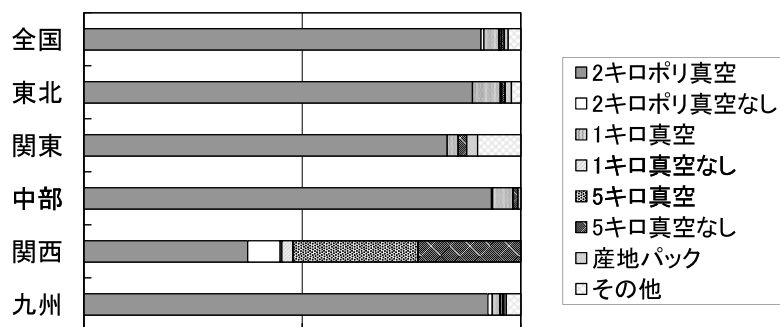


図 3 地域と包装資材使用状況

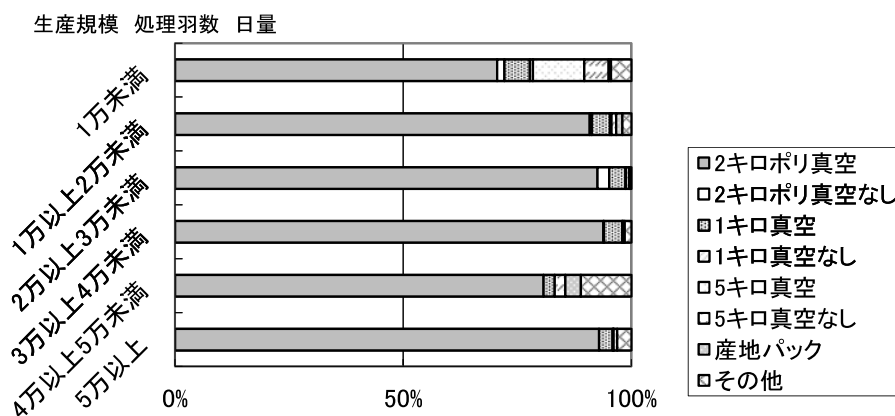


図 4 生産規模と包装資材使用状況

を占めている。続いて、1 キロ真空が 3.4%，産地パックが 0.9%，2 キロ真空なし，5 キロ真空が 0.7%と続く。

産地パックの生産は 53 工場のうち 16 工場での生産が確認された。生産総量は東北地域がもっとも多く、産地パック流通総量の 57.2%が東北、続いて九州 (35.9%)，関東 (4.3%)，中部 (2.5%) となっている。東北では、大手 1 社が各工場生産しており、その結果が大きく影響している。重量規格は、1 キロ、500 グラム、400 グラム、300 グラムという順である。1 キロと 500 グラムを生産している工場がそれぞれ 7 工場であり、400 グラムと 300 グラムは 1 工場ずつという結果になった。

図 4 は生産規模と包装資材使用状況である。生産規模が大きくなるにつれ 2 キロ真空の割合が上昇するが、「4 万以上 5 万未満」の階層において、「その他」の包装形態が多く見られる。これは、特に南九州の全農系列の生産加工企業において顕著であり、「シート包装」などの記述がみられ、マルチパックへの取り組みがなされているようである。「産地パック」は、「4 万以上 5 万未満」の階層では 3.3%，

「1 万以上 2 万未満」の階層では 1.3%と際だっている。前者は前述した東北地域での 1 社による生産の取り組みが反映し、後者のものは、関東地域の全農系列の生産加工企業の生産が反映しているものである。

図 5 は地域別の包装資材（ダンボール、カゴ）の使用状況である。東北、九州ともにダンボール（A 式＋ラップランド）の使用が 9 割近く、全国平均では、88.5%となっている。これは前述の関東、中部、関西地域のデータ数が少ないためであり、使用状況の大きな変化ではないと推察する。

図 6 は生産規模と包装資材（ダンボール、カゴ）の使用状況を見たものである。「2 万以上 3 万未満」の階層以降ダンボールの割合が 9 割を越える。繰り返しになるが、これらのデータのほぼ全てが九州、東北であるので、九州、東北地方の生産加工企業は、生産規模に関係なくダンボールを使用する割合が高いと言える。

図 7 は地域とダンボールを使用した出荷先を見るものである。東北、九州ともに、「荷受」の割合が 6 割程度であるが次いで「その他」の割合も双方 3

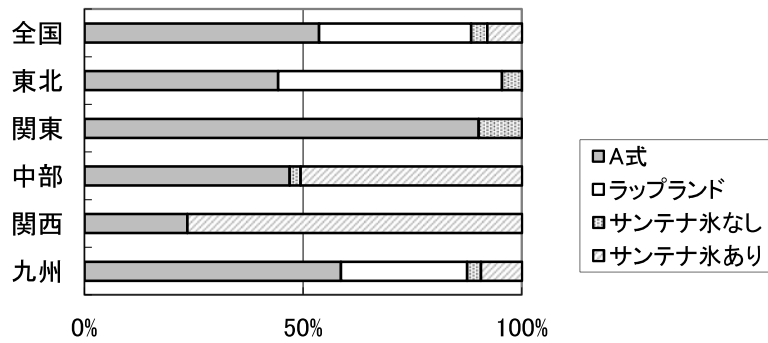


図5 地域と包装資材使用状況

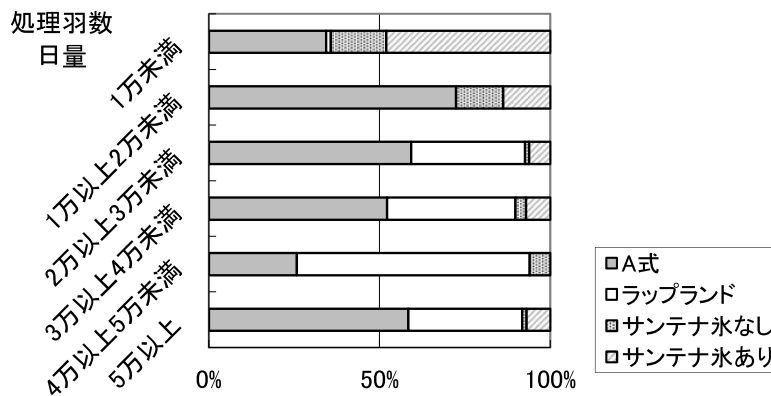


図6 生産規模と包装資材使用状況

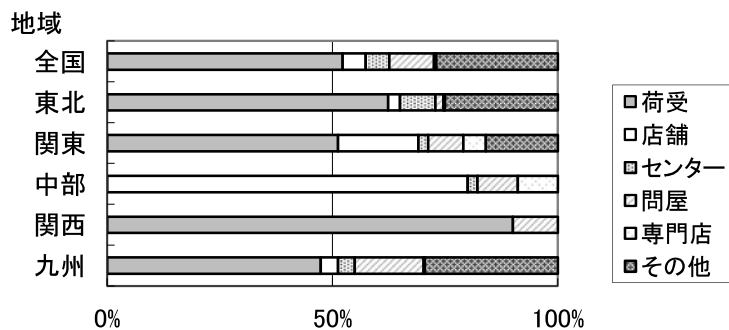


図7 地域とダンボールを使用した出荷先

割程度ある。これは大手の生産加工企業に見られ「自社グループ内の販売会社」「親会社」などの記述がほとんどをしめる。これらは、流通機能的に、「荷受」と同等であるので、「荷受」への出荷が9割とみても良いだろう。

図8は生産規模とダンボールを使用した出荷先である。前述の「自社グループ内の販売会社」などは「4万以上、5万未満」、「5万以上」の2つの階層に集中している。また、スーパーなどの「店舗」への配送は小規模生産であるほど多く見受けられるのが特徴である。

図9は地域とカゴを利用した出荷先である。九州

の最大割合を占める「その他」は図8、9で見られた「自社グループ内の販売会社」がほとんどである。特に南九州の最大手企業がこの回答であるため総計にてこうした結果となった。カゴの場合は「特定の取引先である。」、「ある程度まとまった数量」である必要があるため「荷受」、「センター」などの回答が多くなっている。

図10は規模別のカゴを利用した出荷先である。ここでは、特に「店舗」と「センター」に注目したい。生産規模が3万羽/日までの工場で見受けられる。4万羽以上の工場では「荷受」ないし上述の「自社グループ内の販売会社」のみになっている。

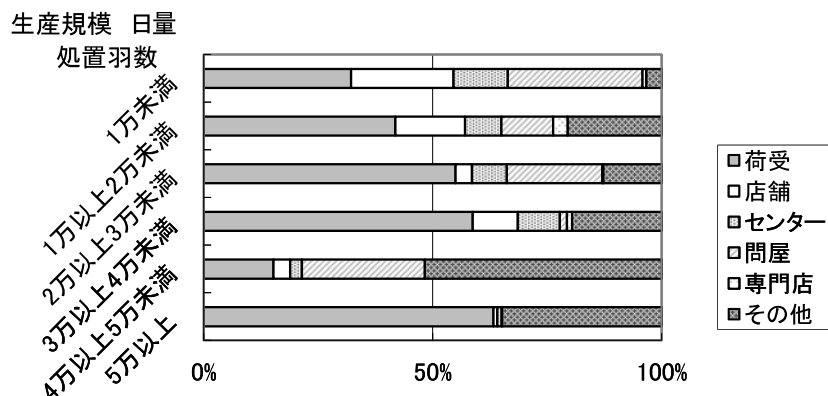


図 8 生産規模とダンボールを使用した出荷先

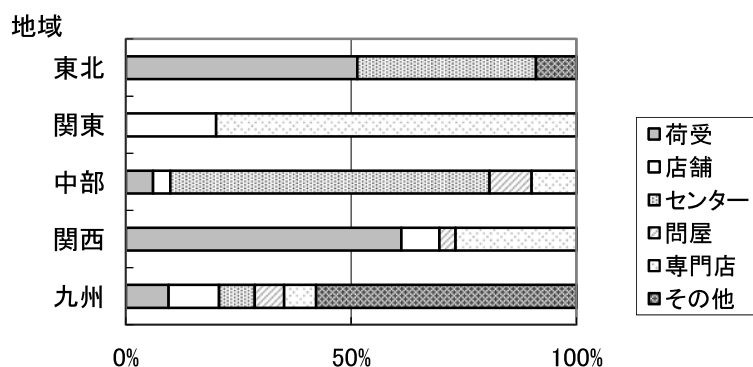


図 9 カゴを利用した出荷先

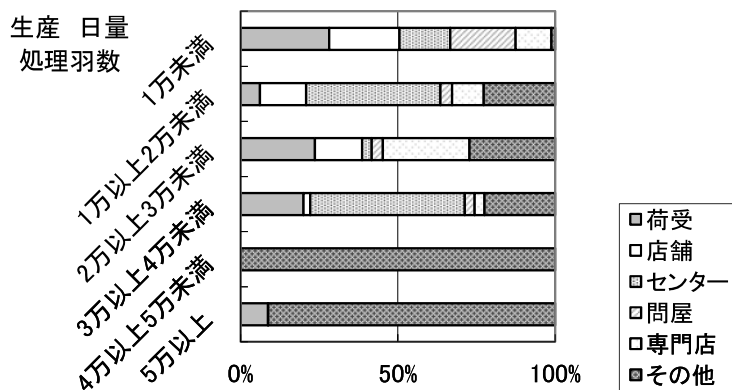


図 10 生産規模とカゴを利用した出荷先

カゴの場合はセンターなどでの作業性の向上とゴミの処分費用が必要無くなる利点がある。しかしながら生産加工工場においてはカゴを回収・洗浄する費用とカゴをおくスペースが必要となる。

また、店舗配送の場合ほとんどが店舗ごとのピッキングを行っていることが考えられる。つまり小規模ないし中規模の生産処理工場ではカゴ配送+ピッキングをすることで顧客へのサービス向上を持ち味にしているのに対し、4万羽以上の大規模工場ではそういったものが見られないのではないだろうか。

図 11 は地域別の産地パックの出荷先である。生

産数量の多い東北と九州のみ比較すると、ほとんど荷受ないし、問屋を通じての小売店舗への配送であることがわかる。元々生産規模(処理羽数日量)が「4万以上5万未満」の階層での産地パック生産が多く、ほとんど「荷受」への出荷となるもの当然である。

図 12 は規模別の産地パックの出荷先である。カゴほど明確に傾向があるわけではないが、小規模生産ほど直接店舗への配送が多い傾向がここでも見られる。

図 13, 14 は生産規模とダンボール (A 式, ラップランド) と 2 キロポリ袋の価格である。平成 21

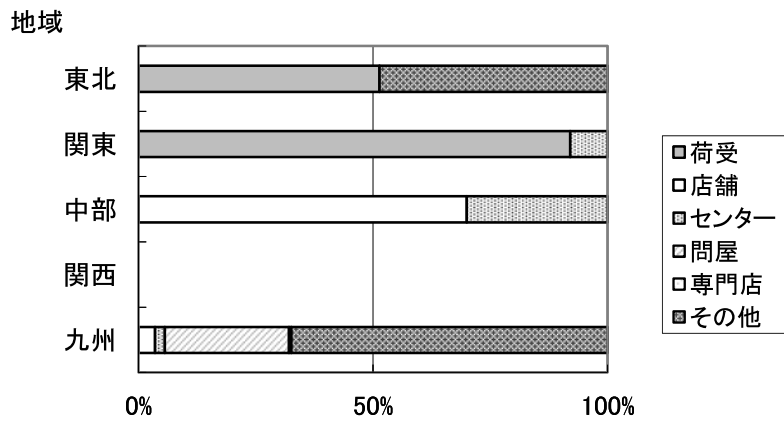


図 11 地域と産地パックの出荷先

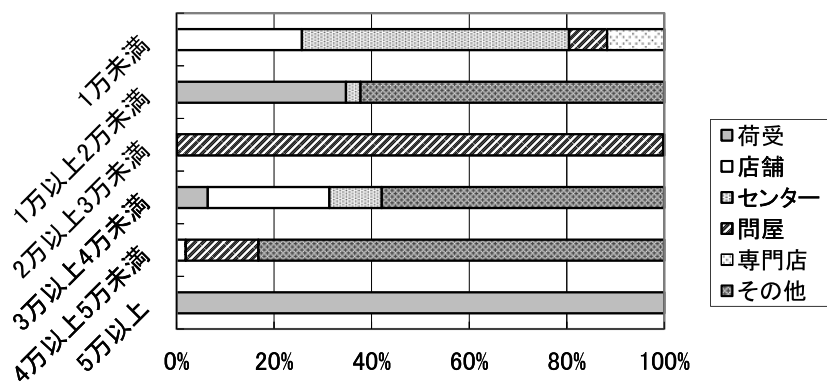


図 12 生産規模と産地パックの出荷先

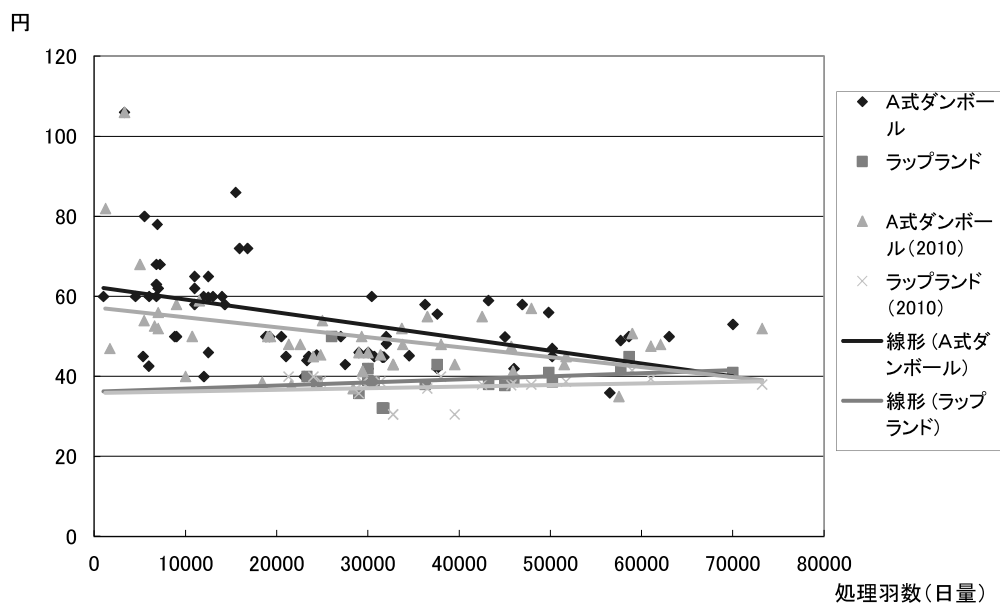


図 13 処理羽数 (日量) ダンボール価格

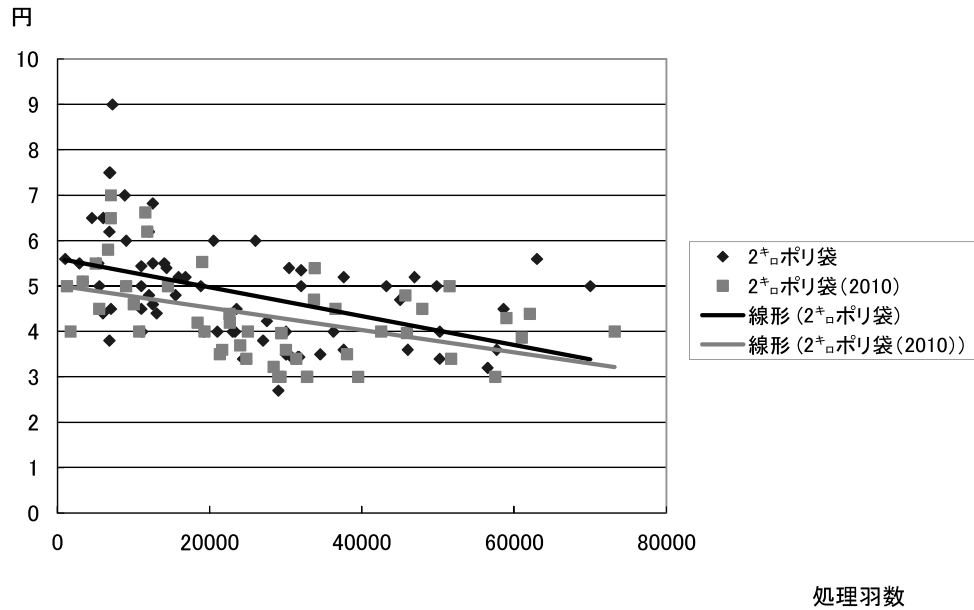


図 14 処理羽数と 2 キロポリ袋価格

年度の調査結果である。

・荷受（別添資料② 荷受企業単純集計結果参照）

表 3 は回答いただいた荷受企業の地域などの概要である。

地鶏、廃鶏を除いた取扱数量合計は年間換算で 52 万トンとなり「平成 22 年度食鳥統計」によると年間の肉用若鶏処理量は 183 万 5091t であるので 28.5% のデータカバー率になっている。

表 4 は地域・規模別の概要である。関東に取扱量の多い企業が集中しているのがわかる。最大取扱量は日量 875 トン（年間換算 23 万 8 千トン）の企業でありこの企業だけでも国内の流通量の 13% となる。

その結果、図 15 を見てみると回収データの関東の取扱総量に対する比率が圧倒的である。

図 16 は地域と荷受に入荷した製品の包装資材使用状況である。今回の調査で荷受に入荷した製品の

表 3. アンケート調査 基本データ（荷受）

地域	回答数	稼働日数	取扱数量（トン／日）	うち地鶏	うち銘柄鶏	うち一般鶏	うち廃鶏
関東	5	263.8	314.7	0.7	39.5	273.9	0.6
中部	6	273.5	11.7	0.2	0.9	10.5	0.6
関西	3	293.7	12.1	0.3	4.3	7.3	0.1
九州	6	269.0	39.1	0.5	12.4	25.2	1.1
合計・平均	20	272.8	95.7	0.4	14.5	80.3	0.7

※支部区分けは食鳥協会支部分けによる

表 4. 地域と取扱数量（トン／日）

地域	取扱数量（トン／日）					総計
	10 トン未満	10 トン以上 20 トン未満	20 トン以上 50 トン未満	50 トン以上 100 トン未満	100 トン以上	
関東			1	2	2	5
中部	5		1			6
関西		3				3
九州	2	1	1	1	1	6
総計	7	4	3	3	3	20

※支部区分けは食鳥協会支部分けによる

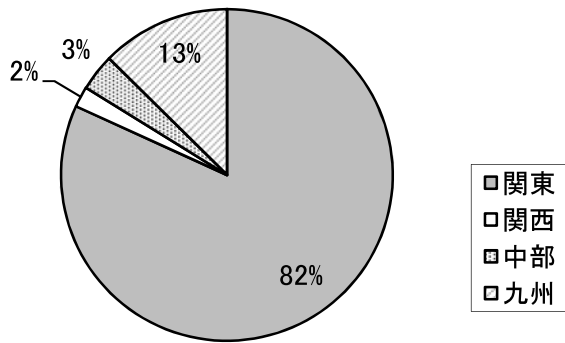


図15 回収データの地域別取扱総量比率

※稼働日数と取扱日量を勘案して作成

うち2キロポリ袋の割合が85.3%になっている。上述の生産加工企業への調査からは90.9%と5%ほどのずれが認められる。

同様に、「産地パック」は荷受の調査では、0.3%であるが、生産加工企業への調査では0.9%となっている。

図17は取扱規模と包装資材の使用状況である。明確な規模と包装資材の相関は見取れないが、「産地パック」を取り扱っているのは取扱日量100ト以上の企業のみであった。

図18は生産加工企業への調査と荷受への調査を

総合して作成した。各流通経路についている吹き出しの括弧内の数値は全体に対しての流通量を示し、地域名の後の%はその流通の地域別内訳を示す。

上述したように、「産地パック」は東北の大手企業と南九州の全農系の生産加工企業が取り組んでいることが確認された、しかしながら出荷先を見てみると、荷受へのみ出荷している東北に対して、九州は荷受、スーパー店舗、スーパーの配送センター、問屋などほぼすべてのチャンネルに出荷しているのがわかる。

東北の生産加工企業が「産地パックに関するクレームは荷受に対応させて、生産現場には持ち込まないようにしている。」とのコメントがあったが、その言葉を裏付ける結果となった。東北の荷受を介しての「産地パック」展開と南九州のスーパー対応を直接受ける展開と北と南で全く違う結果となった。

荷受経由の東北と直接納品する南九州の違いはあるにせよ最終的に「スーパー店舗」ないしは「スーパーの配送センター」に納品されるものも多く、総計で「産地パック」の84.5%がスーパーで販売されているようである。実際には問屋からスーパーに納品されるものも多いと推察され、産地パックの納品

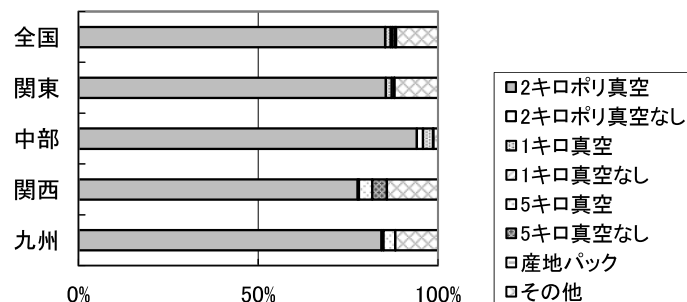


図16 地域と入荷する包装資材使用状況

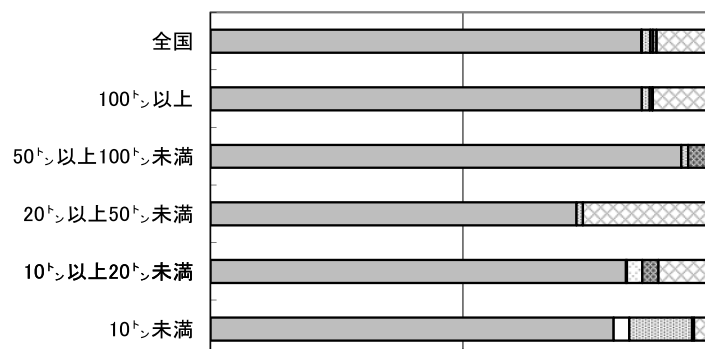


図17 取扱規模と包装資材使用状況

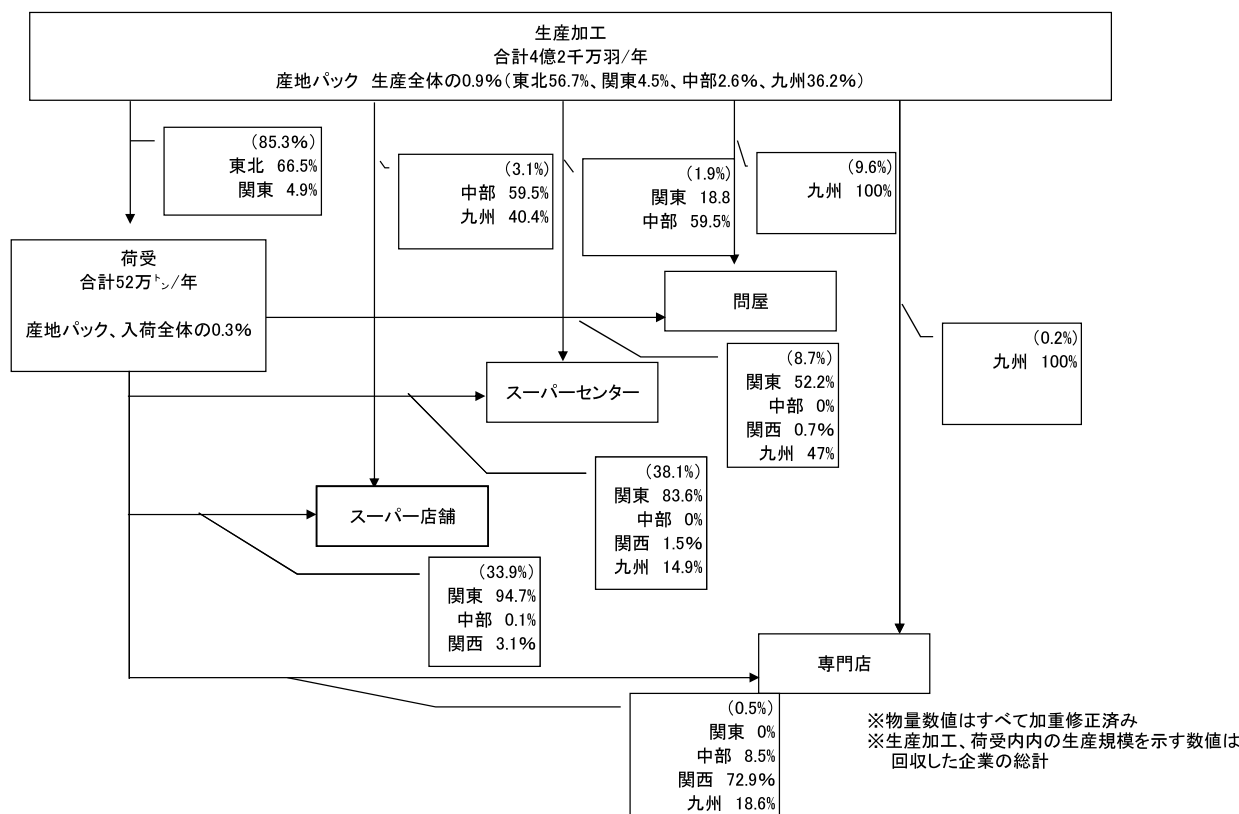


図 18 産地パックの生産流通状況

先としてスーパーは90%と越えるとも見て良いだろう。

4. 訪問調査結果

表5、6は今回訪問調査した企業の概略である。（生産加工企業5社、荷受企業3社に赴き、「包装資材（ポリ袋、ダンボールカゴ）の使用状況」、「産地パックの取り組み」、「今後の方針」などをヒアリングした。

その結果、生産加工企業においては3つのタイプがあるように思える。

1つには、「2キロポリ袋真空」の生産効率を追求する企業である。岩手に本社をおくA社は、「小売の圧力を感じない生産効率の追求」という方針の下、自動包装機の稼働率、包装資材のロス率の低減に尽力している。原油価格が高騰し、包装資材価格も今後上昇していくと予想しているので、現在の状況を維持してゆく方針である。

「小売の圧力を感じない」為に、小売からの要望は全て荷受の段階で絶ち、A社からは荷受に2キロ真空の商品のみ提供する姿勢である。

同様に、愛媛に本社をおくD社も小売からの要望は全て営業部門で解決し、製造工場は生産に集中する体制を取っている。しかしながらD社の場合、営業部門でのパックセンターもあり、小売からの要望に応じた包装はここで少量ながら生産している。こうした、極力商品数を少なくし、生産効率、特に自動計量包装機の効率を追求する企業は、鹿児島に本社をおく企業において「2キロ真空しか生産しない。」と断言する所があった。

このように、A社、D社ともに小規格包装の商品需要があるのは認識しつつも、そういった要望をA社は荷受、D社は営業部門で止める役割を生産とは違うところで担っている。

2つめのタイプとしては鶏肉販売専門店に対しての柔軟な包装を行う企業である。特に関西地域で多いと推察されるが、兵庫に本社をおくE社は「本来なら真空包装よりもビニール袋をくくった形での商品作りをしたい。」というように生鮮性が非常に高く、繊細な品質管理が必要な鶏肉に対して「いい形のままの流通」ができるように包装資材も選定している。「量を売るのではなく、質を売る。」という方針のもと専門店が望むような包装に柔軟に対応し

表 5. 訪問調査した生産加工企業の概要

社名	A 社	B 社	C 社	D 社	E 社
本社所在地	岩手	群馬	広島	愛媛	兵庫
工場数	3	1	1	1	1
処理羽数 (日量総計)	104,750	11,500	9,000	18,500	6,600
特記事項	2 キロポリ袋真空の生産を追求。小売の圧力を感じない生産。	一枚肉不定貫対応を検討。産地パックを初めて5年。	アウトパックセンターを併設。受注に対応した包装。	純粋な生産工場として効率を追求。	専門店向けに各種の包装サービスを行う。

※聞き取り調査及びアンケート調査より作成

表 6. 訪問調査した荷受企業の概要

社名	F 社	G 社	H 社
本社所在地	和歌山	東京	東京
取扱数量 (トン/日)	12.9	32	875
特記事項	個食パックとして小規格包装を展開。	きめ細やかな配送を心がけ、1 袋でも応じる。	産地パックなどは無視できない傾向である。

※聞き取り調査及びアンケート調査より作成

ている。

和歌山に本社をおく F 社は、荷受企業である。「スーパーへの販売拡張は興味がない。」と言い切り、あさびき、アイスパックでの流通を重視している。また、F 社自体も食肉加工職人を抱え、と体を「まな板解体」している。最近の小家族化、高齢化を受けて、「個食パック」を生産するなど、手をかけた包装による商品作りを行っている。

東京に本社をおく G 社は、小売店からの非常に細かな注文でも対応することで「きめ細やかな配送」を行っている。1 袋の注文でも応じ、鶏肉以外の食品（乾物など）も配送することで顧客との信頼関係を維持している。そのほか、G 社自身もカット作業を行い、切り身の重量指定に対応するなどしている。このように、E 社、F 社、G 社ともに「少量多品目」での流通を確立し、顧客との取引関係を継続している。

3 つには、スーパーなどの量販店からの要望に柔軟に包装形態を変化させているタイプである。

兵庫県に本社をおく C 社は、スーパーからの細かな包装に対する要求をアウトパックという形で対応している。受注情報がそのまま表示情報として活用できるシステムを導入し、スーパーの店舗ごとにピッキングできるようにしている。年末などの繁忙期には 24 時間稼働する場合もあるという。「京阪神で生きて行くためには、包装のサービスが必要」、

「デイゼロ、デイワンでの納品でないと意味がない。」と言うように、スーパーからのいかなる要求に対しても即座に正確に答えていこうとしている。

群馬県に本社をおく B 社は、一枚肉不定貫パックでも取り組みに対して意欲を見せている。

B 社は 5 年前から産地パックの生産を行っている。セミオートの計量機を用い、真空は手作業で行っている。こうした産地パックラインに作業員が 4,5 名常時張り付いており、これ以上の生産拡大は不可能である。しかし、一枚肉パック不定貫表示の要望があり、現在、マルチ真空機、オートラベラーなど設備投資を検討している。そうした設備投資をしてまでの対応する受注量であるか、また、生産コスト上昇（計量コスト、包装コスト）に見合う販売価格となりうるのかという不安要素もある。

現在取り組んでいる産地パックの販売価格は、通常価格よりもキロ単価 100 円のプラスになっているが、前述のように生産コスト上昇分を相殺できているかどうかぎりぎりのラインである。こうした産地パックの提案はスーパーからの提案により行うもので、「B 社から新たに産地パック生産を増やす提案はあまりしたくない。」との意向である。

国内最大の荷受である H 社はこうした本来スーパーがしていた店頭に並ぶ形態での包装が生産加工企業へ遡及している事に関して「無視できない傾向」として見ている。H 社においても「サドルパッ

ク (500 g ずつフィルム包装されていて、4 袋くっついていてるもの)」を扱っている。こうした小規格の包装に対しては、H 社は包装機械、計量機械などすでに他部門が所有している。しかし、コストと物量においてはまだ1つの生産ラインを稼働させるには足りず、今後の推移を見守る姿勢を見せている。こうした「大量多品目」流通に対応するには、多くの設備と人件費が必要で、特に近年注目されている産地パックは、前半のアンケート調査でも未だ極少量であり、生産ラインを構成するまでに至っていない。

5. 総 括

以上のようにアンケート調査と訪問調査により包装資材に関しての現状と将来方向を概観した。改めて認識したが、鶏肉の流通は2キロポリ袋の真空6袋でダンボールに詰めるというのが標準である。しかしながら近年、ダンボールの省資源化などの関心が高まり、スーパーを中心としたカゴ流通が普及してきた。

カゴ流通は、その成立要件として、「特定の取引先であること」、「自社便ないしは専属便での配送であること」など回収ができる条件であることが必要とされ、繰り返しカゴが無くなることなく使用できればダンボールよりも経費的に有意である場合がおおい。しかし、生産加工工場では、カゴの洗浄、置き場を確保しなければならない、生産効率ロス、運送効率ロス、回収コストを充分に見合うだけの契約がなされていないといけない。多くの生産加工工場ではダンボールという標準に対してのイレギュラー品としてのカゴ流通であり、生産現場では「これ以上は増やしたくない」という意向が多いようである。しかし、岩手県に本社をおく生産加工企業や、大手畜産グループの生産加工工場では、カゴ流通専門で生産しているところもある。

真空パックに関しては、2キロポリ袋真空が今回調査においても90.9%の生産が確認された。真空機

自体、生産ライン自体が2キロポリ袋の真空を生産するように設定されており、当然の結果である。

従って、小規格の包装は別ラインでの生産をしなければならず、生産加工企業において大きなコストの上昇を招く。特に近年注目されている産地パックはどの生産加工場でも専用のラインを構成するには物量が至っていない。本年度アンケート調査でも鶏肉流通総量の0.9%でしかない。生産加工場で店頭と並ぶ形態での包装は確かに省資源化である。本調査で産地パックの86.4%がスーパーでの取扱であると確認されたが、スーパーから見れば、産地パックは、バックヤードでの再包装にかかる、人件費、資材費、ゴミの処理費用などが軽減できる。しかしながら前述したように、生産加工現場においては別ラインの編成となるため大幅な生産コストの上昇となっている。

しかし、岩手県の手順大手生産加工企業、鹿児島県の手順全農系の生産加工企業、本年度調査においても積極的に取り組む企業が複数確認された。

一枚肉パックの生産ライン化まで検討している企業も2社確認された。これらは同じグループ企業であり、取引先も同じであった。

こうした、川下（スーパー）のコスト削減、省力化、小規格化を川上（生産加工企業）に解決を求める趨勢は今後も続くと思われる、生産加工企業ではそれに対応するかの選択を迫られている。

参考文献

- 長坂政信『アグリビジネスの地域展開－プロイラー産業の産地比較』
- 採卵鶏・プロイラー基礎生理・品種と系統・基本技術・実際家の飼育技術（1983年）（畜産全書）農山漁村文化協会
- 斎藤 修、長谷川量平『国産鶏肉競争力強化総合対策事業：輸入鶏肉の利用状況等動向調査』日本食鳥協会、2008

別添資料①ー 1

《生産加工用》

記 入 日 _____
 貴 社 名 _____
 ご担当者名 _____
 電 話 番 号 _____

および () 内を御記入願います。
 大変お手数ですが、複数の生産工場をお持ちの場合は工場ごとの記入を願います。

本調査表は 工場の分です

工場の基本データについてお伺いします。

分類	質問番号	質問事項	解答欄	単位	備 考
工場基本データ	1	工場稼働日数（年間）	276.2	日	年間の工場稼働日数
	2	処理羽数（日量総計平均）	28783.9	羽	地鶏のうち解体向け 地鶏のうちと体向け
	3	うち 地鶏	572.0	羽	
	4	うち解体むけ	500.6	羽	
	5	うち中抜きと体	71.4	羽	
	6	うち 銘柄鶏	13624.0	羽	銘柄鶏のうち解体向け 銘柄鶏のうちと体向け
	7	うち解体むけ	13489.2	羽	
	8	うち中抜きと体	211.8	羽	
	9	うち 一般鶏	21105.1	羽	一般鶏のうち解体向け 一般鶏のうちと体向け
	10	うち解体むけ	20603.5	羽	
	11	うち中抜きと体	626.9	羽	

鶏肉（解体品）の包装についてお聞きします。12～21 を % でお答えください。（解体品がない場合は無回答）

分類	質問番号	質問事項	解答欄	単位	備 考
解体品包装	12	2 kg ポリ袋真空	90.9	%	
	13	2 kg ポリ袋真空なし	0.7	%	
	14	1 kg ポリ袋真空	3.4	%	
	15	1 kg ポリ袋真空なし	0.0	%	
	16	5 kg ポリ袋真空	0.6	%	
	17	5 kg ポリ袋真空なし	0.7	%	
	18	産地パック () g	0.9	%	
	19	産地パック () g		%	
	20	その他 ()	2.9	%	
	21	その他 ()		%	

と体の包装についてお聞きします。22～26 を % でお答えください。（と体出荷がない場合は無回答）

分類	質問番号	質問事項	解答欄	単位	備 考
マル包装	22	ビニール袋のみ	72.1	%	
	23	ビニール袋 + 氷	10.1	%	
	24	ビニール袋してカゴ（サンテナ）	2.6	%	
	25	ビニール袋 + 氷でカゴ（サンテナ）	6.4	%	
	26	その他 ()	8.8	%	

解体品のダンボールカゴの使用に関してお聞きします。27～31 を % でお答えください。

分類	質問番号	質問事項	解答欄	単位	備 考
ダンボールカゴ	27	A 式ダンボールにて出荷	53.7	%	
	28	ラップランドにて出荷	34.8	%	
	29	カゴ（サンテナ）にて出荷（氷なし）	3.7	%	
	30	カゴ（サンテナ）にて出荷（氷あり）	7.9	%	
	31	その他 ()	0.0	%	

別添資料①ー 2

ダンボール（A 式，ラップ両方）を使用して出荷している出荷先の割合をお書きください。（ダンボール使用全体を 100 として）

分類	質問番号	出荷先	解答欄	単位	
A 式の出荷先	32	荷受	52.2	%	グループ企業への出荷が多い(1 社)
		スーパー・量販店の店舗	5.1	%	
		スーパー・量販店のセンター	5.2	%	
		問屋	9.9	%	
		専門店	0.5	%	
		その他（ ）	26.7	%	
		その他（ ）	0.3	%	

産地パックを出荷している出荷先の割合をお書きください。

分類	質問番号	出荷先	解答欄	単位	
ラップの出荷先	33	荷受	33.3	%	グループ企業への出荷が多い(4 社)
		スーパー・量販店の店舗	3.1	%	
		スーパー・量販店のセンター	1.9	%	
		問屋	9.6	%	
		専門店	0.2	%	
		その他（ ）	52.0	%	
		その他（ ）	0.0	%	

カゴ（サンテナ）を使用して出荷している出荷先の割合をお書きください。（カゴ使用全体を 100 として）

分類	質問番号	出荷先	解答欄	単位	
カゴの出荷先	34	荷受	16.2	%	グループ企業への出荷が多い
		スーパー・量販店の店舗	9.0	%	
		スーパー・量販店のセンター	18.5	%	
		問屋	5.8	%	
		専門店	8.2	%	
		その他（ ）	40.6	%	
		その他（ ）	1.7	%	

包装資材，ダンボール，カゴの資材価格についてお聞きします。

分類	質問番号	質問事項	解答欄	単位	備考
資材価格	35	2 kgポリ袋（真空用）	4.3	円	1 袋あたり，複数ある場合は平均で
	36	2 kgポリ袋（真空なし用）	3.4	円	〃
	37	1 kgポリ袋（真空用）	3.6	円	〃
	38	1 kgポリ袋（真空なし用）	2.2	円	〃
	39	5 kgポリ袋（真空用）	7.9	円	〃
	40	5 kgポリ袋（真空なし用）	6.5	円	〃
	41	A 式ダンボール	50.7	円	購入していないで使用している場合は不明とお書きください
	42	ラップランド	37.4	円	
	43	カゴ（サンテナ）	1326.0	円	
	44	産地パック用ポリ袋	4.1	円	
	45	その他（ ）	24.2	円	

別添資料②ー 1

《荷受用》

記入日 _____
 貴社名 _____
 ご担当者名 _____
 電話番号 _____

および () 内を御記入願います。
 貴社の基本データについてお伺いします。

分類	質問番号	質問事項	解答欄	単位	備 考
基本データ	1	稼働日数（年間）	272.8	日	年間の稼働日数
	2	取扱量（日量総量平均）	95.7	トン	社内取り扱い総量を記入願います
	3	うち 地鶏	0.6	トン	
	4	うち解体品	0.5	トン	
	5	うち中抜きと体	0.4	トン	
	6	うち 銘柄鶏	15.3	トン	
	7	うち解体品	15.5	トン	
	8	うち中抜きと体	0.9	トン	
	9	うち 一般鶏	84.5	トン	
	10	うち解体品	86.7	トン	
	11	うち中抜きと体	1.3	トン	
	12	うち 廃鶏	1.1	トン	
	13	うち解体品	0.9	トン	
	14	うち中抜きと体	0.4	トン	

入荷する鶏肉（解体品）の包装についてお聞きします。15～22 を % でお答えください。（解体品がない場合は無回答）

分類	質問番号	質問事項	解答欄	単位	備 考
入荷解体品包装	15	2 kg ポリ袋真空		%	
	16	2 kg ポリ袋真空なし		%	
	17	1 kg ポリ袋真空		%	
	18	1 kg ポリ袋真空なし		%	
	19	5 kg ポリ袋真空		%	
	20	5 kg ポリ袋真空なし		%	
	21	産地パック () g		%	
	22	その他 ()		%	

入荷についてダンボールカゴの使用に関してお聞きします。23～27 を % でお答えください。

分類	質問番号	質問事項	解答欄	単位	備 考
入荷ダンボールカゴ	23	A 式ダンボールにて入荷		%	全取扱量のうちの割合です
	24	ラップランドにて入荷		%	全取扱量のうちの割合です
	25	カゴ（サンテナ）にて入荷		%	全取扱量のうちの割合です
	26	その他 ()		%	全取扱量のうちの割合です
	27	その他 ()		%	全取扱量のうちの割合です

別添資料②－2

出荷する鶏肉（解体品）の包装についてお聞きます。28～36を％でお答えください。（解体品がない場合は無回答）

分類	質問番号	質問事項	解答欄	単位	備 考
出荷 解体品包装	28	2 kgポリ袋真空		％	
	29	2 kgポリ袋真空なし		％	
	30	1 kgポリ袋真空		％	
	31	1 kgポリ袋真空なし		％	
	32	5 kgポリ袋真空		％	
	33	5 kgポリ袋真空なし		％	
	34	トレイパック		％	
	35	産地パック（ ） g		％	
	36	その他（ ）		％	

出荷についてダンボールカゴの使用についてお聞きます。37～41を％でお答えください。

分類	質問番号	質問事項	解答欄	単位	備 考
出荷 ダンボール カゴ	37	A式ダンボールにて出荷		％	
	38	ラップランドにて出荷		％	
	39	カゴ（サンテナ）にて出荷		％	
	40	その他（ ）		％	
	41	その他（ ）		％	

カゴ（サンテナ）を使用して出荷してる出荷先の割りあいをお書きください。（カゴ使用全体を100として）

分類	質問番号	出荷先	解答欄	単位	
カゴの 出荷先	42	荷受		％	
		スーパー・量販店の店舗		％	
		スーパー・量販店のデポ		％	
		問屋		％	
		専門店		％	
		その他（ ）		％	
		その他（ ）		％	

ダンボール（A式、ラップ）を使用して出荷してる出荷先の割りあいをお書きください。（ダンボール使用全体を100として）

分類	質問番号	出荷先	解答欄	単位	
A式の 出荷先	43	荷受		％	
		スーパー・量販店の店舗		％	
		スーパー・量販店のデポ		％	
		問屋		％	
		専門店		％	
		その他（ ）		％	
		その他（ ）		％	

産地パックを出荷してる出荷先の割りあいをお書きください。

分類	質問番号	出荷先	解答欄	単位	
A式の 出荷先	44	荷受		％	
		スーパー・量販店の店舗		％	
		スーパー・量販店のデポ		％	
		問屋		％	
		専門店		％	
		その他（ ）		％	
		その他（ ）		％	

別添資料③ー 1

《生産加工集計結果》

※処理羽数をウェイトとして加重集計してあります。

分類	質問番号	質問事項	解答欄	単位	備 考
工場基本データ	1	工場稼働日数（年間）	276.2	日	年間の工場稼働日数
	2	処理羽数（日量総計平均）	28783.9	羽	
	3	うち 地鶏	572.0	羽	
	4	うち解体むけ	500.6	羽	地鶏のうち解体向け
	5	うち中抜きと体	71.4	羽	地鶏のうちと体向け
	6	うち 銘柄鶏	13624.0	羽	
	7	うち解体むけ	13489.2	羽	銘柄鶏のうち解体向け
	8	うち中抜きと体	211.8	羽	銘柄鶏のうちと体向け
	9	うち 一般鶏	21105.1	羽	
	10	うち解体むけ	20603.5	羽	一般鶏のうち解体向け
	11	うち中抜きと体	626.9	羽	一般鶏のうちと体向け

鶏肉（解体品）の包装についてお聞きします。12～21 を % でお答えください。（解体品がない場合は無回答）

分類	質問番号	質問事項	解答欄	単位	備 考
解体品包装	12	2 kg ポリ袋真空	90.9	%	
	13	2 kg ポリ袋真空なし	0.7	%	
	14	1 kg ポリ袋真空	3.4	%	
	15	1 kg ポリ袋真空なし	0.0	%	
	16	5 kg ポリ袋真空	0.6	%	
	17	5 kg ポリ袋真空なし	0.7	%	
	18	産地パック（ ） g	0.9	%	
	19	産地パック（ ） g		%	
	20	その他（ ）	2.9	%	
	21	その他（ ）		%	

と体の包装についてお聞きします。22～26 を % でお答えください。（と体出荷がない場合は無回答）

分類	質問番号	質問事項	解答欄	単位	備 考
マル包装	22	ビニール袋のみ	72.1	%	
	23	ビニール袋＋氷	10.1	%	
	24	ビニール袋してカゴ（サンテナ）	2.6	%	
	25	ビニール袋＋氷でカゴ（サンテナ）	6.4	%	
	26	その他（ ）	8.8	%	

解体品のダンボールカゴの使用に関してお聞きします。27～31 を % でお答えください。

分類	質問番号	質問事項	解答欄	単位	備 考
ダンボールカゴ	27	A 式ダンボールにて出荷	53.7	%	
	28	ラップランドにて出荷	34.8	%	
	29	カゴ（サンテナ）にて出荷（氷なし）	3.7	%	
	30	カゴ（サンテナ）にて出荷（氷あり）	7.9	%	
	31	その他（ ）	0.0	%	

別添資料③ー 2

ダンボール（A 式，ラップ両方）を使用して出荷している出荷先の割合をお書きください。（ダンボール使用全体を 100 として）

分類	質問番号	出荷先	解答欄	単位	
A 式の出荷先	32	荷受	52.2	%	グループ企業への出荷が多い(1 社)
		スーパー・量販店の店舗	5.1	%	
		スーパー・量販店のセンター	5.2	%	
		問屋	9.9	%	
		専門店	0.5	%	
		その他（ ）	26.7	%	
		その他（ ）	0.3	%	

産地パックを出荷している出荷先の割合をお書きください。

分類	質問番号	出荷先	解答欄	単位	
ラップの出荷先	33	荷受	33.3	%	グループ企業への出荷が多い(4 社)
		スーパー・量販店の店舗	3.1	%	
		スーパー・量販店のセンター	1.9	%	
		問屋	9.6	%	
		専門店	0.2	%	
		その他（ ）	52.0	%	
		その他（ ）	0.0	%	

カゴ（サンテナ）を使用して出荷している出荷先の割合をお書きください。（カゴ使用全体を 100 として）

分類	質問番号	出荷先	解答欄	単位	
カゴの出荷先	34	荷受	16.2	%	グループ企業への出荷が多い
		スーパー・量販店の店舗	9.0	%	
		スーパー・量販店のセンター	18.5	%	
		問屋	5.8	%	
		専門店	8.2	%	
		その他（ ）	40.6	%	
		その他（ ）	1.7	%	

包装資材，ダンボール，カゴの資材価格についてお聞きします。

分類	質問番号	質問事項	解答欄	単位	備 考
資材価格	35	2 kgポリ袋（真空用）	4.3	円	最大 7 円 最小 3 円
	36	2 kgポリ袋（真空なし用）	3.4	円	最大 4.6 円 最小 2 円
	37	1 kgポリ袋（真空用）	3.6	円	最大 6.3 円 最小 1.7 円
	38	1 kgポリ袋（真空なし用）	2.2	円	最大 3.9 円 最小 1 円
	39	5 kgポリ袋（真空用）	7.9	円	最大 12 円 最小 2 円
	40	5 kgポリ袋（真空なし用）	6.5	円	最大 11.2 円 最小 2.2 円
	41	A 式ダンボール	50.7	円	最大 106 円 最小 35 円
	42	ラップランド	37.4	円	最大 41.5 円 最小 30.5 円
	43	カゴ（サンテナ）	1326.0	円	最大 3500 円 最小 660 円
	44	産地パック用ポリ袋	4.1	円	最大 10 円 最小 2.83 円
	45	その他（ ）	24.2	円	最大 60.6 円 最小 3.6 円

別添資料④ー 1

《荷受用》

※取扱数量をウエイトとして加重集計してあります。

分類	質問番号	質問事項	解答欄	単位	備 考
基本データ	1	稼働日数（年間）	272.8	日	年間の稼働日数
	2	取扱量（日量総量平均）	95.7	トン	社内取り扱い総量を記入願います
	3	うち 地鶏	0.6	トン	
	4	うち解体品	0.5	トン	
	5	うち中抜きと体	0.4	トン	
	6	うち 銘柄鶏	15.3	トン	
	7	うち解体品	15.5	トン	
	8	うち中抜きと体	0.9	トン	
	9	うち 一般鶏	84.5	トン	
	10	うち解体品	86.7	トン	
	11	うち中抜きと体	1.3	トン	
	12	うち 廃鶏	1.1	トン	
	13	うち解体品	0.9	トン	
	14	うち中抜きと体	0.4	トン	

入荷する鶏肉（解体品）の包装についてお聞きします。15～22を％でお答えください。（解体品がない場合は無回答）

分類	質問番号	質問事項	解答欄	単位	備 考
入荷解体品包装	15	2 kgポリ袋真空	85.3	％	
	16	2 kgポリ袋真空なし	0.1	％	
	17	1 kgポリ袋真空	1.5	％	
	18	1 kgポリ袋真空なし	0.0	％	
	19	5 kgポリ袋真空	0.5	％	
	20	5 kgポリ袋真空なし	0.7	％	
	21	産地パック（ ） g	0.3	％	
	22	その他（ ）	11.7	％	

入荷についてダンボールカゴの使用に関してお聞きします。23～27を％でお答えください。

分類	質問番号	質問事項	解答欄	単位	備 考
入荷ダンボールカゴ	23	A式ダンボールにて入荷	62.8	％	全取扱量のうちの割合です
	24	ラップランドにて入荷	31.8	％	全取扱量のうちの割合です
	25	カゴ（サンテナ）にて入荷	3.8	％	全取扱量のうちの割合です
	26	その他（ ）	1.6	％	全取扱量のうちの割合です
	27	その他（ ）	0.0	％	全取扱量のうちの割合です

別添資料④ー 2

出荷する鶏肉（解体品）の包装についてお聞きします。28～36 を % でお答えください。（解体品がない場合は無回答）

分類	質問番号	質問事項	解答欄	単位	備 考
出荷 解体品 包装	28	2 kg ポリ袋真空	84.9	%	
	29	2 kg ポリ袋真空なし	0.2	%	
	30	1 kg ポリ袋真空	1.6	%	
	31	1 kg ポリ袋真空なし	0.2	%	
	32	5 kg ポリ袋真空	0.5	%	
	33	5 kg ポリ袋真空なし	1.0	%	
	34	トレイパック	0.7	%	
	35	産地パック () g	0.4	%	
	36	その他 ()	10.5	%	

出荷についてダンボールカゴの使用に関してお聞きします。37～41 を % でお答えください。

分類	質問番号	質問事項	解答欄	単位	備 考
出荷 ダン ボール カゴ	37	A 式ダンボールにて出荷	47.9	%	
	38	ラップランドにて出荷	45.5	%	
	39	カゴ（サンテナ）にて出荷	6.2	%	
	40	その他 ()	0.2	%	
	41	その他 ()	0.2	%	

カゴ（サンテナ）を使用して出荷してる出荷先の割りあいをお書きください。（カゴ使用全体を 100 として）

分類	質問番号	出荷先	解答欄	単位	
カゴの 出荷先	42	荷受	3.0	%	
		スーパー・量販店の店舗	28.0	%	
		スーパー・量販店のデポ	28.8	%	
		問屋	11.1	%	
		専門店	5.6	%	
		その他 ()	15.1	%	
		その他 ()	1.7	%	

ダンボール（A 式、ラップ）を使用して出荷してる出荷先の割りあいをお書きください。（ダンボール使用全体を 100 として）

分類	質問番号	出荷先	解答欄	単位	
A 式の 出荷先	43	荷受	21.4	%	
		スーパー・量販店の店舗	19.6	%	
		スーパー・量販店のデポ	21.6	%	
		問屋	17.5	%	
		専門店	8.8	%	
		その他 ()	10.7	%	
		その他 ()	1.2	%	

産地パックを出荷してる出荷先の割りあいをお書きください。

分類	質問番号	出荷先	解答欄	単位	
A 式の 出荷先	44	荷受	8.3	%	
		スーパー・量販店の店舗	33.9	%	
		スーパー・量販店のデポ	38.1	%	
		問屋	8.7	%	
		専門店	0.4	%	
		その他 ()	0.0	%	
		その他 ()	0.0	%	